

保育の質向上と地域の活性化を目的としたオンライン研修の可能性

—地域で育む「ほいく Connect!」の立ち上げ—

小澤俊太郎* 持田京子** 高橋努***

1. 研究の概要と目的

今日、日本の保育現場では、保育の質向上について盛んに議論がされている。

保育の質向上を目的とした研修の重要性に関しては、「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」¹⁾において、定められている。

同基準の第7条の2では、第1項として、「児童福祉施設の職員は、常に自己研鑽に励み、法に定めるそれぞれの施設の目的を達成するために必要な知識及び技能の修得、維持及び向上に努めなければならない。」、第2項として、「児童福祉施設は、職員に対し、その資質の向上のための研修の機会を確保しなければならない。」¹⁾と定めている。

平成30年度に改定された「保育所保育指針」²⁾の第5章において、職員の資質向上についての指針が示されている。

その中で、外部研修の活用について明記されており、「各保育所においては、自分たちの保育の良さや可能性を明確化して自覚しながらも、その強みを生かすような研修を進めるとともに、社会的な動向等も踏まえ、課題を的確に把握し、対応することが重要である」²⁾とし、情報社会において急速な変化を遂げている社会の情勢を理解し、保育の抱える課題を把握する必要があることがわかる。

また、中教審答申（令和3年1月）・技術の発達や新たなニーズなど学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて探究心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続け、子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしていくことが求められている。一方で、現在、教師を取り巻く環境は厳しい状況であり、学校における働き方改革

の必要性を述べている。

文部科学省は、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち一人一人に公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育として、2018年に5年間の計画として、ICT環境の実現に向けたGIGAスクール構想の実現化を整備し始めた。そして1人1台の端末と高速通信環境の整備をベースとして、Society 5.0の時代を生きる子供たちのために「個別最適化され、創造性を育む教育」を実現させる施策を行っている³⁾。このGIGAとは「Global and Innovation Gateway for All」の略で、「全ての人にグローバルで革新的な入口を」という意味である。2020年、新型コロナウイルス（以下、COVID-19）の流行と新たな生活様式への対応を受けて、GIGAスクール構想は急加速している。これらの急速なICT化への取り組みは、かつて考えられなかった「学び」の広がりや保障するようにもなった。

そして、文部科学省は、目指すべき次世代の学校・教育現場として、全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現するために、取り組むべきこととして以下のことをあげている。

- ・「学びにおける時間・距離などの制約を取り払う—遠隔・オンライン教育の実施—」
- ・「個別に最適で効果的な学びや支援 一個々の子供の状況を客観的・継続的に把握・共有」
- ・「プロジェクト型学習を通じて創造性を育む—文理分断の脱却とPBLによるSTEAM教育の実現—」
- ・「校務の効率化—学校における事務を迅速かつ便利、効率的に—」

* 埼玉純真短期大学 こども学科 専任講師
** 埼玉純真短期大学 こども学科 教授
*** 埼玉純真短期大学 こども学科 准教授

・「学びの知見の共有や生成 —教師の経験知と科学的視点のベストミックス—」

幼児教育に携わる保育者としても、これらを理解して小学校教育に子どもたちを送り出すと共に、保育者自身もオンライン教育で何を学べるのか、また何を心得なければいけないのか、そして、どうやって学びに取り組むのかを知り、理解を深める必要がある。

また文部科学省は、令和2年10月に「地域連携プラットフォーム構築に関するガイドライン（抜粋）」⁴⁾を公開している。そこでは、

1) 大学等の高等教育機関は地域の人材を育成し、地域経済・社会を支える基盤である。人口減少、産業構造の変化、グローバル化、一極集中型から遠隔分散型への転換といった動きの中で、地域ニーズを踏まえた質の高い高等教育機会の確保と人材の育成がこれまで以上に重要である。

2) IT技術等の進化により、地域においてもデジタル革命など新しい産業創出やイノベーションを生み出し、地域経済・社会を革新的に変えるチャンスであることを述べている。⁴⁾

そのため、大学等、地方公共団体、産業界等様々な関係機関が一体となった恒常的な議論の場を構築し、エビデンスに基づき、現状・課題を把握した上で、地域の将来ビジョンを共有し、地域の課題解決に向けた連携協力の抜本的強化を図っていくことが不可欠であると述べられている。

以上のことより、保育者にとっては地域でのつながりや、オンラインを通しての学び合いが喫緊の課題でもあるといえよう。保育者の学びにおいては、以前当たり前のように行われていた地域での研修会や講習会などの集まりが減少し、昨今はネット上での研修や講習の増加にも目を見張るものがある。

そしてこの状況を急速に押し進めるきっかけとなったのが、2020年に世界各地で感染拡大を続けるCOVID-19の影響だ。

社会の仕組み自体が大きく変わろうとしており、テレワークを導入したことによる自社出勤の減少、オンラインを活用した学びなど、今後数年に渡って変わっていったであろう社会がたった1年ほどで変革した。

COVID-19により、人と人との接触回数を最低限にしていく取り組みが盛んに行われている状況

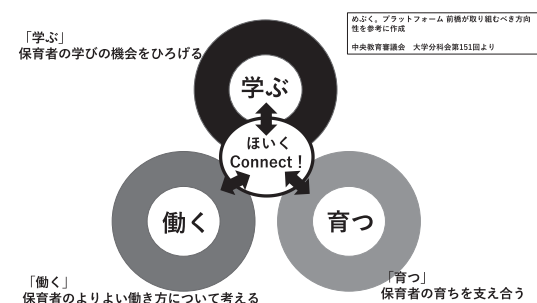
下であっても、保育の質向上を目的とした研修を促進する上で、オンラインを活用した新しい研修の形の実現が急務であると考えた。

これらの理由から、筆者らはオンラインで保育者が学び合う「ほいく Connect！」を立ち上げ、大学がプラットフォームになり「地域の保育者同士のつながり」をサポートすることが、「現場の保育者の成長につながる」という仮定のもとで、第1回「ほいく Connect！」を企画し、その結果を検証することにした。

実践にあたっては以下の3つの目的を持つことにした。(図1参照)

- 1) 「学ぶ」 保育者の学びの機会をひろげる
- 2) 「働く」 保育者のよりよい働き方について考える
- 3) 「育つ」 保育者の育ちを支え合う

(図1)ほいく Connect！ 3つの目的



2. 研究の立ち上げ

オンライン上で保育者を繋ぐという目的のために、オンラインミーティングシステム Zoom を活用することにした。同システムは、コロナ禍で認知度が急激に上がり、多くの会議や研修、セミナーなどでの使用が一般的になりつつある。これらを踏まえて、本プロジェクトで使用するシステムとして採用した。また、Zoom の機能には、「ブレイクアウトルーム」というオンライン上でグループワークのできる仕組みがあり、これを活用することで、より研修の効果をあげると考えた。

本プロジェクトは2021年3月に着想し、同年4月にS短期大学の地域支援の一環として、議論を開始した。

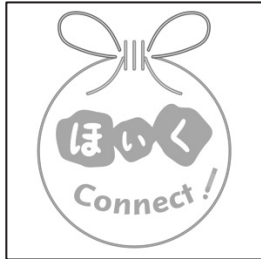
オンラインで保育者同士が繋がることのできる仕組みを構築するためにはどうすれば良いのかについて、筆者らを中心に考えていった。

また、今回のプロジェクトには筆者らのゼミを

者同士が繋がるということに共通点を感じた。そのため、デザインのモチーフとして用いた。

さらに、結び目の輪になる部分の色を緑にした。ここで植物の芽を表現しており、保育者が育ていく芽、子どもが育つ芽、地域が育つ芽という意味を持っている。

(図4)「ほいく Connect!」ロゴデザイン



内容が決まってきた段階で、参加依頼をする園への挨拶文やチラシの作成を始めた。

これと並行して、参加申し込みフォームの作成と事前アンケートの作成も行った。

参加申し込みとアンケートもインターネットからの申し込み、回答にした。今後 ICT の活用促進により、インターネットでのアンケート実施等が一般的になると考え、紙媒体での実施を避けた。

事前アンケートでは、研修当日までに参加者の属性や、境遇を把握する狙いがある。事前アンケートの回答を研修の内容にも反映していこうと考えている。

(図5) チラシのデザイン

第1回 ほいく Connect!
2021年 10月15日 17:30 ▶ 18:30

「ほいく Connect!」とは？
保育者同士がオンラインでつながることできる仕組みとして立ち上げました。
就労後のスキルアップや学び、より良い保育及び働き方の追求、保育現場におけるICTの活用など保育者、現場の抱える課題について、一緒に話し合うことができる機会を目指します。
先生や現場がオンラインで気軽につながることで、さまざまな現場で意見交換をし、みんなで次の時代の保育を考えていく、コンソーシアムの形成を目指しています。

3つの目的
「ほいく Connect!」には、「学ぶ・働く・育つ」という3つの目的があります。

学ぶ
保育者の学びの機会をひろげます

働く
保育者のより良い働き方について考えます

育つ
保育者が、子ども、地域が、ともに育つことを目指します

対象 保育者として勤務されている方
会場 園や自宅などからオンラインで参加
(オンライン会議サービスZoomを利用します)
費用 無料 (ネット回線等通信にかかる費用はご負担ください)
参加方法
① 下記QRコードより、参加申し込みを行ってください
② イベント当日までにPCやスマホに「Zoom」アプリをインストールしてください
③ 申し込みの際、入力していただいたメールアドレスにZoomの参加URLをお送りいたします。当日、開始時刻の5分前にURLより参加してください

お問い合わせ
☎ 348-0045 埼玉県児生市下宿屋430
☎ 048-562-0711 (担当: 小澤俊太郎)
Mail: c2awa.s@sh-junshin.ac.jp

主催: 埼玉純真短期大学

3. 後援依頼

ほいく Connect! がよりオフィシャルなものとして、保育者を繋げる目的を達成するために、前述した参加依頼をする三市に対し、後援を依頼することについて筆者らで検討を行なった。

ネットの書き込みのように、匿名性で悪口や陰口を書き込み合うのではなく、オンライン上であっても顔と実名を公開して参加してもらい、より発展的な議論を交わせることが重要である。

そのためにも、市からの後援という形は参加する側としても安心材料になると考えた。

後援依頼にあたり、2021年9月1日にH市子育て支援課とG市子ども未来課、3日にH市学校教育課、10日にK市こども保育課の各課長様とアポイントをとり、訪問した。

企画の概要説明と、後援依頼について話し、後援申請についての説明をいただいた。

K市のこども保育課との話の中では、今後公立の保育所・幼稚園・子ども園の参加も目指すために必要な意見を頂戴した。

現状、K市内の公立の園には、パソコンの配置が基本的になく、オンラインでの研修となると、市役所に来なければいけなくなる。現場から気楽に参加できるようにするためには、参加申し込み後にパソコンを貸与するなどの対応が必要になるとのことであった。

同時に、インターネット環境に関しても、無線でのインターネット環境が整備されていないため、こちらも同時に考えていかなければいけない課題となった。この課題に対しては、科研費の申請などを行い、予算を確保した上で、解決していきたいと考えている。

4. 個人情報の取り扱いについて

参加者に対し、参加における同意文への同意を必須とした。事前のアンケートで性別や勤務年数といった個人情報を取得するために、同意を必須とした。また、オンラインでの開催であるため、参加者は顔出しした上、実名での参加とした。これには、匿名性による悪質な発言等を避ける目的がある。研修に参加する保育者同士は、顔と名前を表に出した状態で研修に臨むことで、より効果的になると考える。

その際、重要であったのが、事前に参加時は顔出しと実名での参加に同意をもらうということであった。

これらの背景から、参加同意書への同意を必須とした。(図6参照)

参加同意書の作成に当たっては、「個人情報に関すること」、「研修への参加について」についてまとめた。

個人情報に関しては、「個人情報保護法」に基づき作成し、個人情報の「利用目的・第三者提供・開示請求」について、それぞれ制定した。⁵⁾

(図6) 参加同意書

第1回「ほいく Connect！」
参加同意書

参加者の皆様には、以下の内容に同意の上、ご参加をお願いしております。
ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

◆個人情報の取り扱いについて

【個人情報の利用目的】

①「ほいく Connect！」(以下、本イベントという)の申し込み対応のための利用する。
②本イベントの資料作成に利用する。
③本イベントの結果を元にした統計資料や報告書作成、及び保育の研究のために利用する。
(個人を特定する情報を含みません)

【個人情報の第三者提供】

ご記入いただいた個人情報につきましては、本イベントでの使用に限り、第三者に提供することはありません。

【個人情報の開示請求】

個人情報について、ご本人には、開示・訂正・削除・利用停止を請求する権利があります。手続きにあたっては、ご本人確認のうえ対応させていただきますので、以下の連絡先にお問い合わせいたします。

(問い合わせ先)
埼玉純真短期大学 小澤俊太郎
Tel : 048-562-0711 Email : ozawa.s@sai-junshin.ac.jp

◆本イベントの参加について

本イベントは、参加のためのパスワードを設定し、当日スタッフ(埼玉純真短期大学の教員及び、学生)と参加者のみが閲覧できる状態での開催となります。
当日、参加者は顔出し、実名での参加をお願いします。

主催者は本イベント開催の記録を行います。
尚、記録映像に関しては、資料として掲載、報道する可能性があることをご了承の上、ご参加ください。(参加者個人の顔や氏名などの情報は一切含みません)

研修への参加については、当日は顔出し、実名での参加となることや、研修の様子を記録することについて明言している。

5. 実施にあたり

本原稿の執筆時は、まだ第1回目の「ほいく Connect！」が実施されていないため、結果については今後継続的に調査をしていく。

今回初めての取り組みとなるため、事前準備に多くの時間を費やすこととなった。そのため、各市への挨拶や、参加依頼する園への告知が開催予定日の1ヶ月前頃になってしまった。この点は今後の課題として、次回に向けて早いうちに取り上げるテーマを決め、告知文の送付を行いたいと考えている。

開催する時期や、日程の設定についての最適解についての課題も残っている。K市との打ち合わ

せ時にも、現場の先生方からの意見を頂戴したが、やはり幼稚園と保育所では一日の流れが異なるため、どちらにとっても都合の良い時間を模索することの難しさを痛感した。

現段階では、夕方頃がどちらにも都合の良い感じであるため、実際に参加をしていただいた方からの意見も反映しながら、次回以降に生かしていきたい。

また、参加者がどの程度参加してくれるのかということに関しても、非常に不透明なため、次回以降も継続的に続けていくためには、第1回目の実施後にすぐに振り返りを行うことや、次回の計画を立てていく必要があると考えている。

本研究によって、「ほいく Connect！」を新たに企画し、立ち上げた。これを利用し、地域の保育者が繋がることで保育の抱える課題の解決の一端を担うと期待している。

今後も調査を続け、研究を続けていく所存である。

謝辞

今回、第1回「ほいく Connect！」の開催にあたり、H市、G市、K市の三市より後援という形で、ご理解とご協力を頂戴し誠にありがとうございました。

今後、本研究を地域に還元できるように皆さまから頂戴しましたご意見を反映させてまいります。

参考文献

- 1) 厚生労働省「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」1948
- 2) 厚生労働省「保育所保育指針解説」
- 3) 文部科学省「GIGA スクール構想の最新の状況について」2021
- 4) 文部科学省高等教育局「地域連携プラットフォーム構築に関するガイドライン ～地域に貢献し、地域に支持される高等教育へ～」2020
- 5) 個人情報保護委員会「個人情報の保護に関する法律 2020

関連文献

- 1) 明柴聰史「保育の質向上のための研修のあり方 - 保育士等キャリアアップ研修「マネジメント」を通して -」富山短期大学紀要 2020 第56巻

pp68-80

- 2) 野澤祥子，淀川裕美，菊岡里美他「保育・幼児教育施設における新型コロナウイルス感染症に関わる対応や影響についての検討」2020

pp545-568